

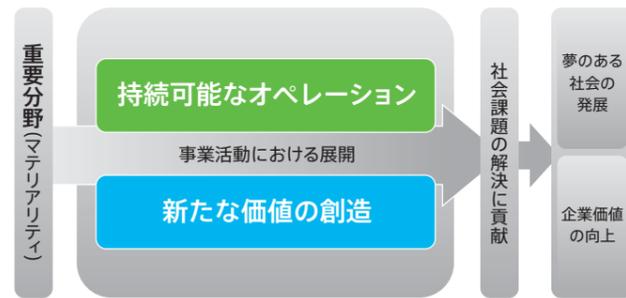
■ CSRオペレーション

CSRオペレーション

基本理念

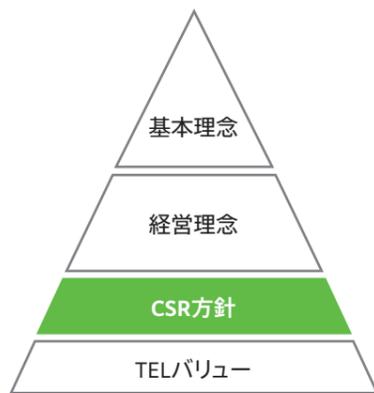
最先端の技術と確かなサービスで、夢のある社会の発展に貢献します

東京エレクトロンにおけるCSRの推進は、創立以来大切にしている基本理念を体現する取り組みです。当社では、企業統治や法令順守、倫理などの観点から持続可能なオペレーションを追求するとともに、製品やサービスの提供による新たな価値の創造により、社会課題の解決に貢献すべくCSR活動を展開しています。これからもCSR活動を通してステークホルダーの皆さまとの信頼関係の構築に努め企業価値を向上させ、持続可能な夢のある社会の発展に貢献したいと考えています。



CSR推進体制

当社では、CSR推進担当取締役、執行役員および関連部門長で構成される「CSR推進会議」を年二回開催し、CSR課題の検討や目標の設定、アクションプランの進捗確認などに取り組んでいます。月次連絡会議では各部署におけるCSR課題を共有し、改善活動を推進しています。これらの会議に加え2017年3月期より、代表取締役・CEO、取締役および本部長で構成される「CSR定例会議」を年二回開催するとともに、「CSR推進会議」を「CSRグローバル推進会議」と改称し、グローバルレベルでのCSR活動をさらに推進していきます。



CSR方針

東京エレクトロンは、CSR活動の基本となる考え方や価値観をCSR方針として策定しています。

1	企業活動	世界中の顧客に、安全かつ高品質な製品とサービスを提供し、質の高い社会の実現に貢献していきます。
2	企業倫理	各国の法令や国際的なルールの遵守はもちろんのこと、高い企業倫理に基づいて行動します。公正かつ自由な市場の競争を妨げる一切の行為は行いません。
3	個人の尊重	個人の人格や個性を尊重します。従業員の多様性を認めるとともに、使命感を共有し、活力ある職場作りを推進していきます。
4	環境	地球環境との調和を目指します。自らの環境負荷低減に努めるとともに、環境に配慮した製品を開発・提供し、顧客を通じた環境負荷低減に寄与していきます。
5	ステークホルダーとのコミュニケーション	当社に関する情報を公平・公正かつタイムリーに発信するとともに、双方向のコミュニケーションに努め、ステークホルダーの期待に適切に対応していきます。
6	社会貢献	地域社会の発展のため、企業市民活動などの社会貢献活動を国内外で展開していきます。

ステークホルダーコミュニケーション

企業活動は、ステークホルダーの皆さまや社会とのコミュニケーションにより成り立っています。当社は、事業の展開には、ステークホルダーの皆さまと信頼関係を構築することが不可欠だと考えています。事業活動の進捗や将来の方向性について理解を深めていただくため、定期的な説明会やウェブサイトなどを通じて、公正で即時性の高い情報開示を心がけています。また、さまざまな分野の交流会や連絡窓口を通じて、ステークホルダーの皆さまの意見や期待を的確に把握し、早い段階で事業活動の検討や展開に早い段階で反映させるよう努めています。

これらの取り組みを通じ、事業活動における潜在的な社会的課題や環境課題を軽減するとともに、将来の優位性や競争力の向上を目指し、継続的な事業活動に取り組んでまいります。

国際的CSRイニシアティブへの参画

当社は、グローバルスタンダードに基づいたCSRの取り組みを進め、サプライチェーン全体で社会に責任ある事業活動を遂行しています。広い視野に立ったCSRの課題に取り組むため、国際的なCSRの枠組みである国連グローバルコンパクトと電子業界のCSRアライアンスであるEICCに、積極的に参画しています。



ステークホルダーコミュニケーション

当社の主なステークホルダー	主管部門	主なコミュニケーション手段
株主・投資家	経営層、IR室	決算説明会(四半期ごと)、中期経営計画説明会、個別面談、工場見学会
お客さま	営業部、開発部、マーケティング部	個別面談、エグゼクティブミーティング、顧客満足度調査(年一回)、技術交流会
取引先さま	調達部、資材部	生産動向説明会(半年ごと)、パートナーズデイ(年一回)、STQA*監査、個別面談 * Supplier Total Quality Assessment
社員	経営層、人事部	社員集会、技術交流会、個別面談、グローバル・エンゲージメント・サーベイ(年一回)
地域社会	各拠点管理部門	工場見学、地域活動の参加、行政機関への訪問・面談、社会貢献活動
行政機関・各種団体	各拠点管理部門	法規制への遵守と届出・モニタリングと提言、業界団体活動、外部機関との連携

CSRオペレーション

マテリアリティの特定

ステークホルダーコミュニケーションから得た当社への期待や要請、また事業のサステナビリティを巡る社会・環境課題を踏まえ、中長期的な企業価値向上を確実にするための重要な取り組みを特定し、マテリアリティ(重要課題)とその目標をまとめました。

2017年3月期のCSR目標

2017年3月期は、5つのマテリアリティに基づき、16の目標を設定しました。目標達成に向けた取り組みを推進していきます。

マテリアリティ	テーマ	目標
製品競争力の強化	イノベーション	開発費 2016年3月期の水準を維持
	製品の環境貢献	ウェーハ当たりのエネルギー使用量・純水使用量を2019年3月期までに10%削減するための取り組みを継続(2014年度3月期比)
顧客対応力の強化	顧客満足	顧客満足度調査 4点満点中すべての項目で3点以上を獲得
	品質	PDCA教育の実施とTEL6-Step(8D問題解決手法)の普及
	情報セキュリティ	対象社員における情報セキュリティ教育受講率 100%
利益体質の強化	収益性の向上	詳細はP5の中期経営計画をご参照ください
	オペレーションの効率化	TPM活動におけるプログラム数 2016年3月期の水準を維持
夢と活力の最大化	活力ある職場の実現	成長に向けた継続的な挑戦を支える職場環境づくりおよび成果に応じた公正な処遇の徹底
	社会貢献	社会貢献プログラム数 2016年3月期の水準を維持
持続可能なオペレーションの構築	コーポレートガバナンス	年一回実施する実効性評価を通じた取締役会の運営向上
	コンプライアンス・倫理	企業倫理・コンプライアンス教育受講率 100%
	事業継続マネジメント	主要な生産拠点および本社におけるBCP訓練・BCPマニュアルの見直し・安否確認システムの訓練の実施(それぞれ年一回)
	安全	TCIR* 0.5未満 * TCIR: 労働時間20万時間当たりの人身事故発生率
	環境マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー使用量 2016年3月期比1%削減(原単位*) 水使用量 2012年3月期の水準を維持(原単位) <small>* 生産数量、人員、建物延床面積など、環境負荷量と密接な関係を持つ値で、環境負荷量を除いた数値</small>
	サプライチェーンマネジメント	サプライチェーンCSRアセスメントを通じたマネジメントの強化* * 調達額80%以上の取引先さま

投資家の皆さまとの対話に関する取り組み

基本的な考え方

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資する建設的な対話を全世界でより多くの投資家と持つために、積極的に対話の機会を設けるよう努めます。また、CEO及び代表取締役自らが、合理的かつ可能な範囲で直接対話に臨むことを重視します。

IR活動

当社は、IR担当執行役員を任命するとともに、IRに関する専任部署として社長直轄のIR室を設置し、投資家の皆さまとの双方向の対話に努めています。

アナリスト・機関投資家向けにCEOおよび経理担当執行役員等をスピーカーとして決算説明会や中期経営計画説明会を行い、加えて国内外において、IR担当執行役員をスピーカーとしてIRカンファレンスへの参加や個別面談を実施しています。

また、IR室のスポークスパーソンは投資家との個別面談を行い、投資家の皆さまからいただいたご意見等を経営に役立てるべく、定期的にCEO、IR担当執行役員に対する報告を行っています。

株主総会

当社は、株主総会の活性化および議決権行使の円滑化に向け、株主総会日の3週間以上前に株主総会招集通知を早期発送しており、株主総会を集中日以外に開催しています。また、議決権行使の方法については、インターネットを利用した議決権行使を採用するほか、(株)ICJが運営する機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームにも参加しています。

招集通知・報告書・決議通知・議決権行使結果・株主総会のプレゼンテーション資料などもウェブサイトに掲載しています。

より詳しい内容については、「東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン」(2015年12月公表)をご覧ください。
http://www.tel.co.jp/ir/policy/cg/document/index_02.pdf

東京エレクトロンは、「FTSE4Good Global Index」銘柄に選定されています。



FTSE4Good

当社は、ロンドン証券取引所の100%出資会社であるFTSE社が世界中の優良企業を対象にした社会的責任投資指標「FTSE4Good Global Index」の銘柄に、2003年9月以来継続して選定されています。